

圏外のアンテナ

[ダイオウイカ]の巻

「ゾウ、サメ、クジラ、イカ…。それぞれの動物の最も体が大きい種を、それぞれ1つずつ答えよ」と、クイズ番組が聞いてきた。

正解は「アフリカゾウ、ジンベイザメ、シロナガスクジラ、ダイオウイカ…」

へえ、ダイオウイカってどのくらい大きいんだろう？と思いながら、見ていた。

その翌日、上野駅の構内を歩いていると、頭上に強い視線を感じた。ギョッとして立ち止まると、巨大な目玉が見下ろしている。

いきなり未知との遭遇である。噂のダイオウイカがどうしてこんなところに？

慌てて壁に掲示された説明書きを読むと、それはバルーン製のレプリカで、国立科学博物館の企画を盛り上げるための装飾だった。

原寸大？まさに、海の魔物。襲われたらひとたまりもないなど、ゾッとする。

そんな「目ぢから」に釣り上げられ、わたしも週末「深海展」に足を向けた。

ダイオウイカばかりではなく、暗黒・低温・高圧の深海には多くの魚が生息しているらしい。その名も、フウセンウナギ、ムカシウミヘビ、ロウソクモグラアンコウ、アカチョッキクジラウオ、ネッタユメハダカ…。最後のやつなんて、熱帯で、夢で、裸である。

日常的に親しんでいる魚でないせいか、どれも、舌をかみそうな、マニアックな名前を付けられてしまっている。

沿海に住む魚の名前はもっとあっさりしているもの。

ハゼ、コウナゴ、ヒラメ、アイナメ、メバル、ナメタガレイ…。こんな感じ。

いつのまにか、深い海の底でうごめいている未開の生態系への驚きが、故郷の海に住む、人なつこい魚たちの受難への気がかりに取って代わる。

この海もあの海も、一つの同じ海である。

=2013年9月17日掲載=



「深海展」を告知する、全長13メートルの「ダイオウイカ」